



新年

あけましておめでとうございます。小倉東総合法律事務所は、今年も皆さんの笑顔のために、所員一同、力を合わせて頑張っていく所存です。

さて、最近は、お正月と言ってもめっきりその風情を感じなくなってきたような気がします。門松を立てている家もほとんど見かけなくなりました。そもそも正月というのは、田の神さまである歳神さまを迎える行事だそうです。田の神さまは、秋の稲刈りが終わると山に登って山の神さまとなる。そして新春になると再び里に下りてくる。門松は、その訪れる神さまの目印となるように立てられたものだそうです。注連飾りも神さまを迎え入れるためのものだそうです。こんな由来を調べてみ

ると、私たちの周りからお正月の風情が消えていっているのも、なんとなく納得できそうです。田んぼを住宅地に変え、アメリカや中国などから入ってくる食べ物を食べていたら、いつの間にか田の神さまのことを私たちは忘れてしまった。そんなところでしょうか。

しかし、やはり田の神さまはおられるというのを、私たちは今、実感させられているのではないのでしょうか。メラミン、事故米という食べ物の安全性にかかわる問題や、小麦やとうもろこしなどの穀物原料の値上がりの問題。このような問題が起きてきたのは、私たちが田の神さまのことを忘れてしまったことと無関係ではないように思います。千と千尋の神隠しという映画に

は私たちの国のたくさんの神さまが出てきました。私たちの先祖は、生活のそこかしこに神さまを感じ、畏敬と感謝の念をささげて生きてきたことがわかります。今の私たちの社会がかかえる問題。その解決の道は、コンピュータではなく、そんな神さまのことを思い出すことで案外と開けてくるのかもしれない。

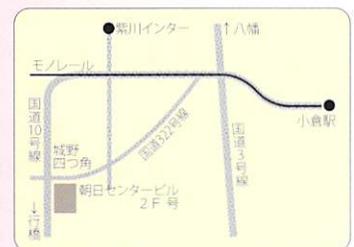
とはいえ、我が事務所の仕事は法律を扱う仕事。神頼みではいけないのはもちろんです。今年は、裁判員裁判も始まります。私たちも精進して、皆さんのより一層の信頼を得られるよう頑張ります。今年もよろしくお願いたします。

■みなさんといっしょに環境や社会の問題を考え、紙面を作っていきます。

東風

No.18

- 発行日 2009年1月1日
- 発行所 小倉東総合法律事務所
- 編集者 荒牧 啓一
- 連絡先 〒802-0062 北九州市小倉北区片野新町2丁目12番21号
朝日センタービル 2階
TEL093(932)5575
FAX093(932)5600
e-mail:ponpoko@lime.ocn.ne.jp



安易な公約にしてほしくない

真に「安全・安心・おいしい給食」を



「自校直営」で

2002年1月発行の東風でも特集したが、全国の公立中学校の8割近くで実施されている中学校給食が、ここ北九州市では実施されていない。長年の要望と運動の高まりの中、新市長はその実施を公約に掲げ、現在、4つの中学校でモデル事業として3タイプの給食が試されている。しかし、今年3月までのモデル実施の期限を前に、中学校給食は実施期日の見えないまま事実上「おあずけ」になっている。

愛情＝お弁当だけじゃない

そもそも中学校給食をめぐるのは、実施の方法以前にさまざまな意見や論議があり、親と子の間での意識の差、親の間でも意見が分かれる。反対意見の中に多いアレルギーの問題、量（個人差）の問題等は給食実施に当たっての細かい配慮で克服できるものであるし、「お弁当作りは親の愛情」という論議については、確かに現代において家庭における食育は特に重要なテーマであると思うが、しかし現実にそれを受けられない子どもが多数存在すること、弁当で愛情を受け取っているはずの北九州市の非行率が他市に比べ決して低いものでないことを考えれば、「愛情」とはわが子だけに注ぐものではなく、地域とともに生きる子ども達みんなに注がれるものであって欲しいと思う。お弁当を作らなくとも注ぐ愛情の形は様々あるわけで、また朝食、夕食にその愛情を振向けることもできるだろう。



陶磁器の給食食器

モデル実施の方式じゃ限界が

現在実施されているモデルは弁当方式、食缶方式、親子方式で、いずれも民間委託によるものだ。弁当箱に詰められたおかずは、衛生管理上も冷めた物にならざるを得ず、量も一定、献立にも限りがある。食缶による配送は、弁当よりは温かく量の調整などは可能だが、麺類等は難しい。親子方式とは近くの小学校で作られた給食を配送するというものだが、こちらも民間委託の調理員さん達の過密労働によって何とか支えられるもので、安全、衛生面での不安はぬぐえない。また、なにより子ども達を失望させたのは、「おいしくない」こと。アンケートの結果子ども達からは「おいしくない」ことを理由に反対の声が続出、一方親は給食の実施を望む声比以前より多くなっている。「おいしくない」理由には、配送による限界（冷める、熱が入りすぎる等）が考えられるし、「味が薄い」ことも原因らしい。コンビ

ニ味になれた子ども達に、薄味は奨励されるべきだが、薄味でも美味しいものを作る努力は重要だろう。「給食」は単なる食物の提供ではない。子ども達の喜ぶ顔が見えない民間委託では、いずれの方法でも「安全、おいしい、栄養満点」には限界があるといわざるを得ない。

豊かな人間形成には「食」が大事



学校給食法第四条は、「義務教育諸学校の設置者は、当該義務教育諸学校において学校給食が実施されるように努めなければならない」と定めている。また、平成17年6月成立した食育基本法は、「子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要である」と位置付け、地方公共団体は「食育の推進に関し国との連携を図りつつ、その地方公共団体の区域の特性を生かした自主的な施策を策定し及び実施する責務を有する。」としている。

私たちの子どものころの小学校の給食は、自分の学校の給食室で、調理員さんと栄養士さんが地元の食材で丹精こめて作る給食のにおいに囲まれて、子ども達と「おいしかったよ」「ありがとう」の気持ちを通わせながら、先生も心豊かな給食指導をされていたように思う。勿論、アレルギー対策や子どもの個性への配慮などは当時は範疇に無かったし、無理やり食べさせる等強制的な食事指導などの問題もあっただろう。しかしこうした点は十分に克服できる課題であり、安易な公約のための導入ではなく、真に子ども達の健やかな成長発達の一助として、保護者、教職員、地域、関係者が一緒になって「安全・安心・おいしい給食」をぜひとも「自校直営」で実施してほしいと願っている。

Information 新鮮情報

第29回全国クレサラ・商工ローン・ヤミ金被害者交流会 **北九州**

「なくそう多重債務、築こうセーフティネット～貸金業法の施行延期を許さない!」をテーマに「クレサラ全国大会」がここ北九州で行われます。

日時 11月28日(土)～29日(日)

場所 九州厚生年金会館、KMMビル、毎日会館他

記念講演講師 二宮 厚美 氏
(神戸大学発達科学部教授)

分科会:行政の多重債務対策・過払金返還・ヤミ金問題・生活保護・労働問題・自死対策・各種被害者交流会等 多数
パネルディスカッションテーマ:

貸金業法完全施行を求める!
～消費者庁に期待するもの～

Yes WE Can —— ?
核廃絶で世界をリード

オバマまんじゅう

オバマ大統領はブラハで「米国は、核兵器を使用した唯一の核保有国として行動すべき道義的責任を有している。この努力は一国だけでは成功しない。だがリードすることはできるし、着手することはできる」と演説した。友人からもらった小浜市土産の「オバマまんじゅう」。キュートな後ろ頭に真の後光はさすのが。



労働ホットライン

九州労働弁護団の弁護士による
無料電話相談

毎週水曜日 13:30～15:30

北九州 093-581-1890

福岡 092-721-1251

解雇、賃金カット、不払い、セクハラ、パワハラなど、弁護士が相談、アドバイスをし、必要な場合は面談の上、訴訟など問題解決にあたります。



● みな様からの暮らしの智恵やおもしろ情報
お勧めの書籍など、ともしお寄せ下さい

正社員が当たり前

..... 変わるユニクロ

「いらっしゃいませー」「ありがとうございます」。元気のいい店員さんたちの声売り場に響く。小倉のユニクロでシャツや肌着を買った。実は、この買い物には訳がある。

大企業の派遣切り、雇い止めの嵐が吹き荒れる中、この事態を冷静に見つめる経営者がいた。ユニクロの柳井正社長だ。韓国の新聞のインタビューでこう述べた。

「トヨタやソニーのようなやり方は、全国民を敵に回すのも同じだ」「私が最も残念だったのは大企業に共産党の人々だけが訪ねて行って『雇用を維持せよ』と求めたことです。本来なら、総理や自民党の要人こそ行くべきでした」

日本共産党は、財界・大企業から選挙の支援も受けなければ、企業団体献金も受け取らない。志位和夫委員長がトヨタ本社や経団連と直談判し、私もトヨタや日産の九州工場に出向いて「社会的責任を果たせ」と求めた。こうした活動は、経済界においても一目置かれているのだ。

「柳井社長さん、いいことおっしゃいましたね。だから、ユニクロでシャツの2～3枚買おうかなと思っています」(笑)——最近、演説会でこのように語っている私。有言実行の買い物となった。

田村 貴昭

Profile

1961年生まれ。北九州大学法学部政治学科卒
北九州市議会議員を2期務める。現在日本共産党九州沖縄ブロック国政対策委員長。2005年衆院選に初挑戦。
次期衆院選比例(九州沖縄ブロック)予定候補
趣味:パソコン、料理。

資格:焼酎アドバイザー、温泉入浴指導員 (詳しくはブログをご覧ください)



レジでふと頭をよぎった。市議時代に相談を受けたあの人は、ちゃんと仕事に就けているだろうか。また、不当解雇でたたかっている九州各地の仲間たちのことも思い出した。

「貴方は正社員?」

「はい、そうです」

ユニクロはいま、契約社員とパート従業員の正社員化をすすめている。必要な人材を確保するには「不安定な雇用状態をなくす制度が必要」との判断からという。急がば回れ。人材への投資は、スタッフのやる気を引き出し、結局は会社に利益をもたらす。

10年間で32兆円も内部留保金を増やしながら、製造業大手はそのため込み金を株式投資などに回してきた。労働者を安い賃金で働かせ、モノのように使い捨て、会社はボロもうけで財テク。こんな横暴・勝手は決して許されない。

「正社員が当たり前の職場を。同じ仕事をしたら、派遣社員もパートも正社員と同じ給料を。まともな雇用のルールをつくるために、私は働きます」——新しいシャツを着たら、一段と力がわいてきた。国民のいのちと暮らしがかかった衆院選はもうすぐ。